デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 13 日（火） 発行：ていネコの投資ノート

【数値の時点】日経平均・TOPIX・国債先物は 13 日 15 時の終値。東証プライムの売買代金・売買高は 17 時時点の概算値、香港・台湾の株価指数は 14 時 3 分時点、WTI 原油は 16 時 16 分時点の時間外水準で、いずれも終値ではありません。

1．本日のサマリー

- 日経平均株価は 1,253 円 40 銭安の 6 万 7777 円 52 銭と 4 営業日続落した。朝方から半導体関連に売りが集中し、前場には下げ幅が一時 2,000 円に迫る 6 万 7058 円 56 銭まで下押ししたが、後場は値ごろ感からの押し目買いで下げ渋った。
- 半面、TOPIX は 5.86 ポイント高の 4,110.67 と 2 日続伸。東証プライムの値上がりは 1,137 銘柄、値下がりは 378 銘柄にとどまり、33 業種中 26 業種が上昇した。指数の大幅安と市場全体の上昇が同時に起きた一日である。
- 下げの実体は限られる。東京エレクトロン、ソフトバンクグループ、アドバンテスト、キオクシア HD の 4 銘柄だけで日経平均を約 1,274 円押し下げており、この 4 銘柄を除けば指数はわずかに上昇していた計算になる（筆者算出）。
- 材料は二つ。中国 CXMT の DRAM 開発進展報道でメモリ競争の激化が意識され、韓国総合株価指数は 5.46％安と急落。もう一つは中東情勢で、フーシ派によるリヤド空港攻撃を受けた原油高が石油・海運・商社株を押し上げた。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	67,777.52 円	−1,253.40（−1.82％）	4 営業日続落。15 時の終値
TOPIX	4,110.67	+5.86（+0.14％）	2 日続伸。15 時の終値
日経平均 高値／安値	68,710.99／67,058.56	—	始値は 466 円 07 銭安の 68,564.85 円
東証プライム売買代金	7 兆 9,640 億円	+1,186 億円	概算値。売買高は 23 億 5,628 万株
値上がり／値下がり	1,137／378 銘柄	—	変わらず 31。値上がりが全体の 73.4％
新発 10 年物国債利回り	3.005％	−0.005％	日中は一時 3％を割り込む場面
新発 20 年物国債利回り	3.847％	—	13 日夕刻時点の気配値
長期国債先物（12 月限）	124 円 93 銭	横ばい	寄付 124 円 82 銭、高値 125 円 06 銭
ドル／円	158.24 円	−0.37 円	17 時前。日中安値 158.19 円
ユーロ／円	176.90 円	−0.04 円	17 時前。ユーロドルは 1.1179 ドル
NY ダウ	51,850.55 ドル	+195.60	10 月 12 日の終値。3 日続伸
S&P500	7,807.24	−4.30（−0.06％）	10 月 12 日の終値
ナスダック総合	27,245.90	−120.27（−0.44％）	10 月 12 日の終値
SOX 指数	12,236.79	−335.63（−2.67％）	12 日の終値。半導体株の急落
米 10 年／2 年債利回り	5.19／4.76％	—	12 日時点の気配値。30 年債は 5.55％
韓国総合株価指数	6,035.35	−348.89（−5.46％）	13 日の終値。SK ハイニックス約 9％安
上海総合指数	3,800.86	+0.10％	13 日の終値。石油・銀行株が堅調
香港ハンセン指数	24,192.63	−78.57（−0.32％）	13 日 14 時 3 分時点
WTI 原油（11 月限）	92 ドル台前半	—	13 日 16 時 16 分時点の時間外取引

3．株式市場

寄り付きから下げ幅拡大、後場は押し目買いで下げ渋り

日経平均は 466 円 07 銭安の 6 万 8564 円 85 銭で寄り付いた。前日の米国市場で SOX 指数が 2.67％下落したことを受け、東京エレクトロンやアドバンテストなど半導体製造装置株に売りが先行。短期筋の先物売りも加わり、前引けにかけて下げ幅は 1,900 円を超え、安値は 6 万 7058 円 56 銭と 6 万 7000 円割れが目前に迫った。4 営業日続落で、10 月 6 日終値からの下落幅は累計 2,906 円に達した（筆者算出）。

後場は様相が変わった。値ごろ感からの押し目買いが入り、出遅れていた海運やゲーム関連に資金が向かい、下げ幅は 1,253 円まで縮小した。売買代金は 7 兆 9,640 億円（概算）と前営業日を上回り、8 日の 7 兆 6,133 億円から 3 営業日連続で増加している。投げ売りというより、銘柄の入れ替えが活発だったことを示す数字である。

業種別では 26 業種が上昇、原油高と金利を手掛かりに

上昇率上位は海運、鉱業、卸売、石油・石炭製品。原油が 90 ドル台に高止まりし、石油関連や商社に買いが入った。インフレ懸念から銀行・保険にも資金が流れている。下落は非鉄金属、電気機器、情報通信、金属製品の 7 業種にとどまったが、最大の下落業種が原油高の恩恵を受けるはずの非鉄金属だった点は見逃せない。フジクラや住友電気工業というデータセンター向け配線の主力が売られた結果であり、商品ではなく AI 関連という括りで売られたことを示している。

4 営業日続落の中身は一様ではない

4 日間の下げ幅は累計 2,906 円（筆者算出）だが、理由は毎日入れ替わっている。10 月 7 日は直近 2 日で約 2,400 円上昇した反動の利益確定売りで 648 円安。8 日は金利高への警戒に加え、新 TOPIX への移行に絡む売りが指摘され 993 円安。9 日は前 2 日の反動で押し目買いが入り 11 円安にとどまり、3 連休前で商いも細った。そして本日は半導体の急落である。下落が 4 日続いたという事実だけを取り出して一本の下降トレンドと読むのは、相場の実態からやや離れている。

個別ではファーストリテイリングが日経平均を 162 円 62 銭押し上げ、リクルート HD、コナミ G、豊田通商、ファナック、トヨタ自動車、三菱商事も堅調。半面、イビデン、TDK、レーザーテック、ディスコ、ローム、太陽誘電など半導体関連は幅広く下落した。

4．本日の主題：4銘柄が消した「上昇した一日」

本日の東京市場を一行で言えば、日経平均が 1.82%下げ、TOPIX が 0.14%上げた、である。その差は 1.96 ポイント（筆者算出）。同じ市場の評価が指数で逆を向くのは珍しい。

原因は寄与度に集約される。東京エレクトロンが 450 円 04 銭、ソフトバンクグループが 398 円 86 銭、アドバンテストが 261 円 05 銭、キオクシア HD が 164 円 59 銭。押し下げ合計は約 1,274 円で、日経平均の下落幅 1,253 円を上回る。つまりこの 4 銘柄を除けば指数は小幅高だった（筆者算出）。日経平均は値がさ株の影響を受けやすく、TOPIX は時価総額加重で金融・内需・資源の比重が高い。本日はその設計の違いが騰落の符号の違いとして現れた。

この分離は本日限りではない。10 月 9 日も日経平均が小幅安で終わる一方、東証プライムの値上がりは 76.9%を占めた。10 月 6 日高値からの下落率は 4.27%（筆者算出）だが、売買代金は 7 兆 6,133 億円、7 兆 8,454 億円、7 兆 9,640 億円と増えている。資金は市場から引いているのではなく、AI・半導体から原油・金融・内需へ移っている。

5．債券・金利

債券相場は小幅高。長期国債先物 12 月限は 124 円 82 銭で始まり、前日の原油高による国内インフレ懸念から 124 円 74 銭まで売られたが、米長期金利の低下と国内株安で買い戻され 124 円 93 銭で引けた。新発 10 年物国債利回りは 3.005%と 0.005%低下し、日中は一時 3%を割り込んだ。2 年物 1.902%、5 年物 2.325%、20 年物 3.847%（いずれも夕刻の気配値）で、10 月 8 日の 20 年物 3.950%に比べ超長期ゾーンの金利低下が目立つ。

株安が長期金利を押し下げる一方で、銀行・保険株は上昇した。市場は金利低下を一時的なリスク回避と見ている。IMF は 13 日、国債利回りの急上昇が世界の金融システム最大のリスクに浮上したと指摘した。米国債は 2 年 4.76%、10 年 5.19%、30 年 5.55%（12 日の気配値）と高水準で、外部環境は日本の金利に上向きの圧力をかけやすい。

6．為替・商品

ドル円は 158.24 円と前営業日の海外終値比 0.37 円の円高。東京時間は 158.19～158.36 円の狭いレンジで上値が重かった。ユーロ円は 176.90 円、ユーロドルは 1.1179 ドル。158 円台という水準自体が円の弱さを示している。9 月の国内企業物価指数は前年同月比 6.8%上昇（前月 7.6%）と高止まりしている。

商品は原油が主役。12 日の WTI11 月限は 1.89 ドル高の 93.74 ドルで清算され、2.06%上昇した。リヤド空港攻撃とロシア情勢の悪化による供給逼迫懸念が背景にある。13 日の時間外は調整売りで 92 ドル台前半。NY 金 12 月限は 25.70 ドル安の 4,190.60 ドルと反落し、スポット金も 13 日は 4,170 ドル前後にとどまった。地政学リスクが金買いに向かっていない点は留意したい。

7．海外市場の動向

12 日の米国市場はまちまち。NY ダウは早期利上げ観測の後退で 195 ドル 60 セント高の 5 万 1850 ドル 55 セントと 3 日続伸した半面、著名空売り投資家によるハイテク株の投資判断引き下げでナスダック総合は 120.27 ポイント安、S&P500 は 4.30 ポイント安。象徴的なのは SOX 指数で、中国企業との競争激化への警戒からマイクロンなどメモリ関連が売られ 2.67%急落し、指数全体が横ばいでも半導体だけが崩れた一日となった。

13 日のアジアは半導体比重の差がそのまま出た。韓国総合株価指数は 5.46%安の 6,035.35 と急落し、SK ハイニックスは約 9%安、サムスン電子も 7%超下げた。台湾加権指数は 1.84%安（14 時 3 分時点）。半面、半導体比重の低い香港ハンセン指数は 0.32%安、豪 ASX200 はほぼ横ばいで、上海総合指数は石油・銀行株に支えられ 0.10%高。CXMT の開発進展は中国には好材料であり、同じ報道が市場ごとに逆方向へ作用している。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	東証プライム売買代金
10 月 7 日(水)	70,035.71	−648.27	4,154.11	3.105%	—
10 月 8 日(木)	69,042.11	−993.60	4,091.46	3.080%	7 兆 6,133 億円
10 月 9 日(金)	69,030.92	−11.19	4,104.81	3.010%	7 兆 8,454 億円
10 月 13 日(火)	67,777.52	−1,253.40	4,110.67	3.005%	7 兆 9,640 億円

9．総括と注目点

本日は「半導体の調整」と「それ以外の底堅さ」が同時に進んだ。日経平均の下げはほぼ 4 銘柄で説明でき、相場全体が崩れたという評価は当たらない。原油高を起点とした物価上昇観測が金融・資源・内需を支える構図は、インフレが続く限り持続しやすい。問題は日経平均がこの資金移動を映さないことで、下げ幅だけを見ると物色の変化を取り逃がすおそれがある。

- 14 日 21 時 30 分の米 9 月 CPI（予想は前年同月比+3.6%、コア+2.5%）と、15 日同時刻の米 9 月 PPI（総合 +5.3%、コア+4.4%）。上振れすれば米金利高が再燃し、値がさ株経由で日本株に跳ね返りやすい。
- 米大手銀を皮切りに本格化する決算シーズン。半導体の売られ方が構造要因か、決算で修正されるのかを見極める局面に入る。
- 中東情勢。リヤド空港攻撃に米国が関与する可能性が指摘されており、原油の上下が物色を左右する。

脚注：東証プライムの売買代金・売買高は 17 時時点の概算値で、確報値と異なる場合がある。騰落銘柄数は株探ほか 3 媒体が一致する値上がり 1,137・値下がり 378・変わらず 31 を採用。フィスコの大引け概況は値上がり 24.4%・値下がり 73.4%と逆の比率を記すが TOPIX の上昇と整合せず、日経 QUICK の 15 時 43 分時点 1,140・380・32 は引け後の集計差とみられる。寄与度は株探とフィスコの大引けランキングで一致を確認（ザラバ版は不採用）。WTI 原油と NY 金の 12 日清算値は、ロイター系報道と時系列データが一致する 93.74 ドル・4,190.60 ドルを採用（フィスコは 93.22 ドル・4,192.82 ドルと記すが 10 月 9 日終値 91.85 ドルと整合しない）。主力 4 銘柄を除いた日経平均の騰落、日経平均と TOPIX の騰落率差（1.96 ポイント）、10 月 6 日高値からの下落率、10 月 9 日の新発 10 年物国債利回り（3.010%）は筆者算出。新発 2 年・5 年・20 年物利回りは 13 日夕刻時点の気配値。新発 10 年物利回りは出典により 2.995%と 3.005%の記載があり、15 時時点の 3.005%を採用。10 月 7 日の売買代金、新発 30 年物利回り、ハンセンテック・コスダック指数は確認できず「—」とした。10 月 12 日（月）はスポーツの日で東証は休場。本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典は日本経済新聞、株探、財経新聞（フィスコ配信）、みんかぶ、ロイター、DZH フィナンシャルリサーチ、OANDA 証券、日経平均プロフィル、日本証券業協会、松井証券。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。